

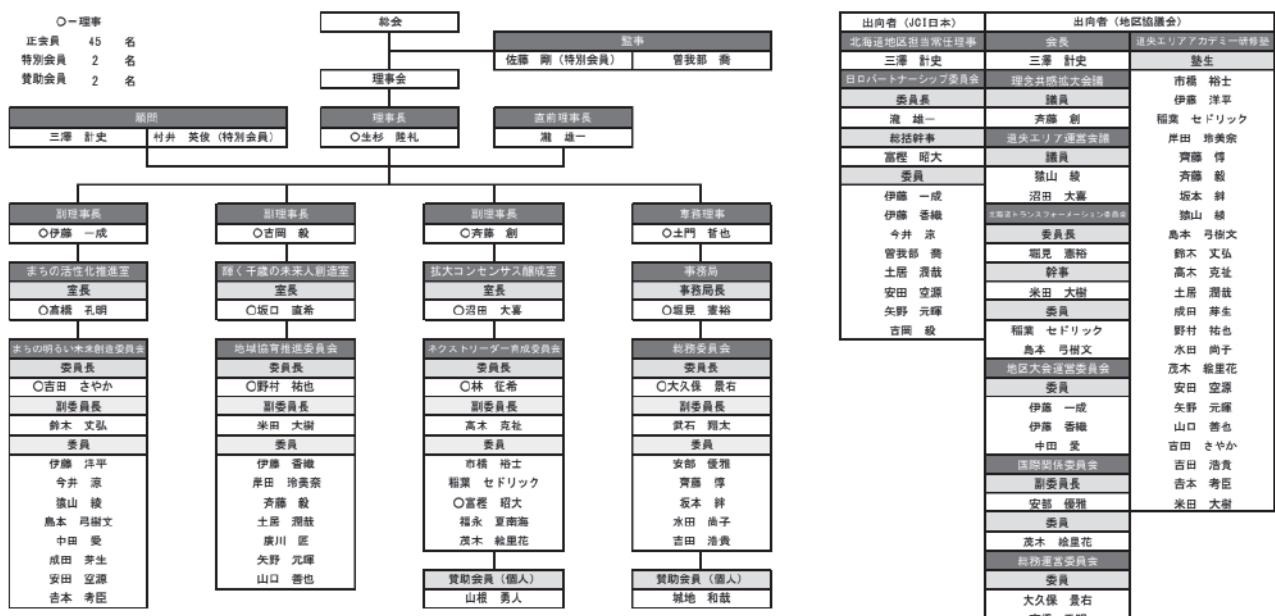
目 次

目次	1P
組織図.....	2P
ご挨拶.....	3P
2022 年度理事長・直前理事長対談.....	4~7P
事業・例会・外部事業報告.....	8~12P
活動報告(副理事長・専務理事・室長)	13~15P
委員長対談.....	16~19P
委員会活動報告.....	20~21P
北海道地区担当常任理事インタビュー	22~25P
出向者報告.....	26~29P
活動報告(顧問・監事)	30~31P
会員褒章・特別会員褒章報告	32~33P
Photo Gallery	34P
会員募集メッセージ	35P



組織図

一般社団法人千歳青年会議所 2022年度 組織図



ご挨拶



2022 年度 一般社団法人千歳青年会議所
第 59 代理事長
生杉 隆礼

2022 年度 一般社団法人千歳青年会議所
直前理事長
瀧 雄一

日頃より一般社団法人千歳青年会議所の事業及び活動に対し、関係各所並びに千歳青年会議所先輩諸氏そして会員ご家族の皆様には、多大なるご協力を賜り深く御礼申し上げます。今年度はすべての人に愛され、社会に必要とされる組織として、持続的に発展し夢と希望に満ち溢れた千歳の未来をつくることを基本理念として掲げ活動してまいりました。新型コロナウィルス感染症拡大が収束していない状況下でしたが、地域の皆様にもご理解をいただき、新たな挑戦の一歩を踏み出し会員一丸となり運動を邁進した1年となりました。全力で JC を全うしてくれたメンバーに敬意と、携わったすべての皆様に感謝を申し上げます。

はじめに、パートナーとして協同していただいた行政、企業、団体の皆様、物心両面でお支えいただいたシニアの皆様、ともに戦った 48 名の正会員、賛助会員、特別会員の皆様、そして、JCI 千歳の運動にご理解ご協力をいただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。2022 年度は「すべての人に愛され、社会に必要とされる組織として、持続的に発展し夢と希望に満ち溢れた千歳の未来をつくる」の基本理念のもと、ダイナミックな運動を行う時代に即した組織へとアップデートし、社会に好循環をもたらす運動を展開した 1 年でありました。今後も引き続き、最先端の運動を創造する唯一無二の組織であることをお誓い申し上げ、直前理事長挨拶に代えさせていただきます。

Special Talk Session

生杉 隆礼 × 曙 雄一

地区大会を経て迎えた 2022年について

瀧 雄一 直前理事長（以下、瀧）
今、千歳青年会議所が想像以上にリスペクトされているのだなとすごくよく分かった。やはり注目されているのって皆の頑張りだとすごく感じた。

—地区大会を経て迎えた本年度を振り返ってみて組織がどうなっていったか、メンバーがどうなったのか。お聞かせください。

瀧 率直に言わせてもらうと、やっぱり当時の部会長を三役にあげていて、生杉隆礼が次年度理事長となったわけで、部会長の動きとか、それぞれの能力とか、それぞれの価値観とか2021年度の理事長として見てきて、理事長は心配なかったのだけど他の3人が心配だったっていう気持ちちは最初の頃はあった。これは事実で、ただ客観的に見れば2020年度の経験が大きかったのだと思う。2021年度やった事というと、拡大と地区大会しかなくて、そんな中でほぼ全ての会員が正会員になってくれたということにすごく価値があったし、それをコントロールするっていう役割を担った人が2022年度はそれがまた大変だったと思う。3年未満の経験がない若いメンバーが多いことは結構マイナス要素に捉えられているが実は



そうじゃなくて、それが逆に千歳青年会議所の強みだと思う。拡大が成功したら、絶対そうなるわけで、それをコントロールする難しさも2022年度あったわけだし、そこを丁寧にやってきた結果が、来年50人スタートで迎えられる。それを考えると素晴らしい2022年だったのかなと思う。やつたら疲弊しちゃうとか、そこで満足してしまうとか、そういうことをすごく言われるけど、これは生杉理事長のプレイヤーとしての責任と役割だったと思うし、それを見事に全うしてやってくれたなというのが率直な感想。千歳青年会議所が良かった所は、例会とか事業とか何でもそうだけど、やることを目的にしてなかったこと。ゴール設定が、通過点だったっていうこの地区大会への捉え方が、他のLOMと大きく違った所じゃないかなと思う。なぜそれができたかといふと、経験してきた人達がこのLOMにいたっていうこともそうだし、それは当時の曙直前理事長もそうだし北海道地区役員経験も、地区大会もいっぱい見てきた人達がいたっていうのもそうだと思う。疲弊してもおかしくない年だったはず、未曾有のコロナという真只中にあったから。そういう意味では、すごくゴール設定がしっかりできていた、やる事が目的じゃなかつたっていうのが1番なんじゃないかなと僕は思う。

—メンバーの半数以上が経験のない状態で始まったわけですが、メンバーにこうやってもらいたいなっていう意識は何かあったのでしょうか？また燃え尽き症候群になりがちな話も生杉理事長はよくされていた印象だったのですが。

生杉 隆礼 理事長（以下、生杉）
それこそ2021年度の瀧直前理事長が会員拡大と地区大会だけに振り切ったじゃないですか。コロナということもあったかもしれないけども、それって瀧直前は先を見据えて



のことだったと思っていて。本来であればあれだけの地区大会をやった主力メンバーというのは疲弊して当たり前だったと思うけど、あくまでも地区大会というのは通過点だし、新しいメンバーが入ってきてそのおかげで成り立っている状態。それがすごく強かった。それでも、振り返ってみると昨年の9月から12月は、2021年度があって地区大会があって予定者があって、毎日何をやっているのか分からない状態だったね。そして今年度は、三澤顧問が地区の会長になつたし、瀧直前理事長が本会の委員長になる、この2人を筆頭に多くの出向者を輩出することで、メンバーにはたくさんの機会を提供したいと思っていた。結果予定者の段階から皆の歩みを止めないで並行して、皆が動き出してくれたから、1月の頭から地区大会の勢いのまま行けたと思っています。

瀧 2022年度に開催した新年交례会では、あれだけの出向者を輩出できた事が、皆圧巻だったと思う。他のLOMからすればその中に、どんな役が偉いとかそういうのは全くなくて、それぞれのフィールドで活躍できるメンバーがいると思うので、あの出向者の数と2021年に入ったメンバーがいたって事で、千歳での地区大会はあのタイミングでベストだったと思うし、今の千歳青年会議所が先を行っているというのは2020年度に賛助会員というシステムを作り、2021年度に開花させ2022年度、2023年度それを万全にしてこれだけの出向者、これだけのメンバーで臨めるという事は、それぞれの年度で役割を全うしたことには外ならないかな。それは理事長からフォロワーのメンバー全員が良

かったのだと思う。長いこと青年会議所を見てきて、今の千歳青年会議所が1番ベストだと思っている。もちろん歴史とか、そのレガシーを築き上げてくれたっていう感謝はあるけれど、これだけ地区大会を契機に劇的に、この良い方向に向いた LOM というのは、おそらく北海道で千歳だけしかないかなと俺は思うぐらい。2012 年からずっと地区大会に行き続けて思うこと。

生杉 人数が増えて、この人数だったらできることってまた増えてくると思って今年度スタートしました。当然、歴の浅いメンバーが多いけれども俺の目的は明確で、まちづくりであれば環境とテクノロジー。教育であれば、これから担う人財の育成。会員拡大のラインでは、拡大と新しく入ってきたメンバーに、いかに JC を伝えるか、総務でいえば、対外からも愛される組織を作っていく。この明確な 4 つの目的をもつて 2022 年度のメンバーが役割を全うできた。その 4 つの目的がはっきりしていたから、今年は割と方向性は見せることができたと思っている。入会 1 年 2 年というのは JC の価値ってなかなか見出せなくて。3 年 4 年経つくると JC ってこういうものだってなってくるけれど、その前に辞めてしまう人も出てくるわけ。そういう人をなくすためには、俺は機会の提供と同期の絆を高めることを理事長として意識したかな。

理事長として大切にしたこと

瀧 地区大会を成功させるっていう事は僕が誘致した責任があったのでただその時、実行委員長を誰がするかっていうのがすごく重要なことだったので、生杉隆礼という男が入ってきて、戦略的に地区大会運営委員会の委員長として出向させたら、必ずその価値がおそらく伝わってくれるだろうなっていうことを僕は信じていた。そして、実行委員長になってもらいたくて出向したことが想像以上にはまっちゃって。それが結果的に今の千歳青年会議所の形をつくることができた。

生杉 初出向で地区大会運営委員会の委員長、しかも地区大会に行つたことがない状況で何をやるので

すかっていう、なかなかの高いハードルでしたけどね。

瀧 そういう意味では、僕も三澤顧問も過去に何度も地区役員で出向したけれど、長年千歳青年会議所の看板を背負って役員になり続けたっていうこの組織に価値があつたのだと思うよね。いつでも委員長として出向することができたから。最低 1 人は出向するのが当たり前になっている文化が築かれた後だったからというのもあって。でも結果的にそこで頑張るのは本人しかいないので、一番良い状態で臨めた地区大会なんじゃないかな。そして僕がこだわっていたものがチームビルディング。2021 年のスタートが 25 人しかいなくて地区大会を開催する LOM として他 LOM から「千歳大丈夫か」って思っていたと思う。だけど僕はその時のメンバーを見て、必ずできると思った。でもそれは生杉実行委員長と佐藤専務に助けられたから。だけど 2021 年度がスタートした時、年末年始沖縄にいて、挨拶の練習をしていて東京がコロナの感染者数が増えてきて、北海道の状況も悪くなってきて、新年交礼会を開催するか、しないか、WEB に切り替えるかっていう話とかもあって、その時に現地開催で新年交礼会を開催したのは北海道で 2LOM だけ。その時に今でも忘れないけど、当時の三役の間でも「WEB でいいんじゃないですか」「いや理事長の判断に任せる」という意見が割れたタイミングがあって、そんな時にこれでクラスターが起きたら地区大会どころじゃないなって思った。一方でここで新年交礼会を現地開催しなかったら地区大会は WEB 開催になってしまふんだろうなっていう自分なりの 2 択があって、結果的には現地開催を選んで「理事長がやるんだったらやろう」と三役が言ってくれて現地開催することができた。幸いなことにクラスターも出なくて、結果論だけど、新年交礼会を現地開催にこだわってやったことの価値がすごくあったんじゃないかなと思っている。そして、実際に地区大会間近になってコロナの状況も悪くなってきて、まん延防止等重点措置がかかって当時の福西会長と何を WEB にして何を現地でやるかっていう数名だけでやった会議が記憶に残っている。でもやっぱり僕は現地開催でやりたいっていう思いがあった。2022 年度

の予定者の動きもある中でさっさと終わらせたいっていう考え方もある。でも、その中で俺たちが目指してきた地区大会って現地開催だったんだろうな。僕が大会式典に込めた思いは、どうしても千歳の地でやりたかったんだという気持ちが強かったということと、これまで頑張ってくれた千歳青年会議所メンバーの 1 人ひとりの顔をすべての LOM に見てほしかったっていうこと。それが地区大会にこだわってきた理由。やっぱり WEB 開催の良さと現地開催の良さを比べた時、フィジカル、対面で人と会うっていう価値が薄れていっていた時期でもあったし、そこにやっぱり価値があるってことを決定づける地区大会になった。ただ、やっぱりそこにはとことんこだわったなっていうのは自分でも理解している。土門部会長が「開催が 2 ヶ月も延期してあと 2 ヶ月もあるのかという気持ちではあったけれど、結果として地区大会を現地でやって良かったです」と最後に言ってくれたから良かった。これが現地開催の本当の価値だったと僕は思う。

生杉 新年交礼会もほとんどの LOM が中止したっていう中で開催したのは大きかったよね。1989 年に千歳青年会議所が唯一新年交礼会を中止したのが、昭和天皇が崩御されて新年交礼会をやるべきではないという理由だったそうで、それが奇しくも千歳青年会議所が初めて地区大会を主管する年だったのです。年末から現地開催へのこだわりをもっていた瀧理事長はすごいなと思ったし、あの新年交礼会がなかったら千歳大会も完全 WEB だつたんだろうなと俺も思います。

—2022 年はデジタルを取り入れた新しい手法がありましたがどうでしょうか。

生杉 テクノロジーに特化した例会だったから WEB にしたことはあったけど、基本的には現地でやったよね。きっかけは地区大会を現地でやつたということで、社会全般が自粛傾向とか後ろ向きになっている所に風穴を開けたのは地区大会であったのではないかと。やっぱりいくらテクノロジーが進化して便利になったとしても、当然対面で会うことの価値というのは変わらないし、CHITOSE RIVER CITY PROJECT も

いろんな意見があったけど、結果現地でやって良かったと思ってます。

—これだけはっていう芯はありましたか。

生杉 さっきも言ったけども、JCの良さを入会歴浅いメンバーに分かって欲しかった。半数以上が入会2年以内というなかでいかにJCの理念や本質を伝えられる機会を増やして、モチベーションを上げて次の年度に繋げられるかということを考えて1年過ごしてきました。

—会議などたくさんある中で、家族、仕事との両立はどうやっていましたか。その解決策は何ですか。

生杉 まず、理事長をやりたくてやった人もいたと思うけど、どちらかというと私は自分からやりたいというより、皆に支えられて理事長をやらせてもらっていると思っていて。だから、会議もたくさんあって大変なこともあるけども、結果自分の成長にもなっていることを家族や会社にも理解してくれるようになったと思っています。自分に負荷をかければ、自然と時間の使い方も上手になっていくと思います。JCばかりにならないように、家族との時間も会社との時間も大切にするのが解決策じゃないでしょうか。あと、会長を輩出しているLOMだから挨拶の機会も例年よりも格段に多かったです。やっぱり、それも自分の中では自信にもなるし、本会の地区担当常任理事と委員長を輩出して、ましてや44名いる状態のLOMで理事長できるのはこの1年しかないから良い経験をさせてもらったと思っています。

瀧 本会の理事会構成メンバーに名を連ねたのは、地区担当常任理事としては三澤顧問が29年ぶり、委員長としては俺が14年ぶり。本会の会議の場で理事長に挨拶してもらう場面があるんだよね。あそこで理事長に挨拶をしていただけるっていうことは、やっぱり本会出向者としてありがたいし千歳の生杉理事長が挨拶するってなった時に千歳から出向している理事会構成メンバーが2人立つわけ。この2人が立つっていうことが珍しくて、日本全国各地から出向してきた理事会構成メンバーで2人もいるんだから。この凄さって日本の理事会に出

席しなかったら分からないんだよね。2人立つてことが。千歳で2人っていうことは勢いのあるLOMなんだなって。そう思われることによって、千歳のホームページや、SNSが見られるんだよね。そうするとCHITOSE RIVER CITY PROJECTってどんな事業なのとか聞かれたりする。それは同じような事業をやっているLOMで具体的に言うと広島なんだけど、広島の議長委員長に紹介するから、ちょっとそれを聞かせてあげて。そういう繋がりが増えていく。なんでこんな小さいLOMから2人も出向しているのだろうと調べると、こんな事業をやっているから参考にさせて欲しい。そういったことが千歳青年会議所のプレゼンスを上げている要素だし、そこからまたスペシャルな人に知ってもらうことでさすが2人も出向しているLOMの理事長挨拶だなってなるんだよね。

生杉 プレッシャーはエグかったね。

瀧 ブロック会長を入れると100人ぐらいの前で。理事会構成メンバーって、僕がいうのもアレだけど、すごく経験しているメンバーばかりだから査定てくるの。理事長挨拶だったり上程だったり。でもその中での理事長挨拶はすごかったねと懇親会の場で絶対なる。でも生杉理事長の挨拶が1番良かった。やっぱり僕も嬉しかったし、おそらく三澤顧問もきっと嬉しく思っていたろうし生杉理事長にとっては貴重な1年だったのかなと、成長できる機会だったと思っている。

理事長のお金事情

瀧 僕は、基本的にご馳走するタイプだったかな。偉そうなことを言っている割に割り勘してくる先輩が嫌いで、ただ、JCライフで出会ってきた先輩の中で、僕が専務を務めていた時の理事長が中山先輩。1年間で1回もお金を出したことないぐらいご馳走になって、僕もこういう性格なので「いいえ、理事長出しますよ」と言っても100年早いって言われて「俺にはいいからお前の後輩にしてやれ」という先輩だったから、その影響がでかいっていうのが1つある。「俺が居る時はいいから。俺に払わせろ。そのかわり後輩に全部払ってあげろ」というタイ

プの僕の人生の中で影響受けた人で、今思うと存在がでかかったなって思う。男って感じの人だった。人生って、先輩にご馳走になった分と自分が先輩としてご馳走する分が、必ずイコールになっているから、それができない人は嫌いで、そういう人とは個人的に付き合いたくない。色々な先輩たちに影響受けたっていうのもあるし、僕も散々ご馳走してもらってきたので、できる範囲でやっていこうって決めた1年だった。

生杉 私の場合、今年は会議がたくさんあったりして特殊で、本会に地区担を出して委員長を出しているので当然、全部の会議や事業に出席する義務があるからもちろんそこに多少の時間とお金はかかったかな。LOMの理事長として考えたら奢る機会は多いけど、それは払いたい時に払うだけで、でも払いたくない機会はなかったかな。

瀧 生杉理事長には、富樫次年度理事長がいいだけ煽るからね。(笑)

生杉 そうなんよ。煽る人がいれば仕方ない。でも、気持ちとしては後世に繋いで欲しいっていう気持ちがあるし。

瀧 バランスがすごく重要だよ。やり続けると千歳青年会議所に悪い伝統として残ってしまうから。だから悪いなって思うのが半分、でも逆に、払えないなら何の役職でもやらなきゃいいじゃんって思うのも半分。僕は考え方方が古いから。でもその環境を整備していくのも理事長としての役目で、その人その人のカラーで良いと思っている。

生杉 理事長予定者の時にたまたま所有しているアパートを売却したことをあるメンバーに知られて「理事長やるにはアパート売却しなきゃできない」と思われたことがあった。大きな誤解を与えてしまった。たまたま、仕事上タイミングが合ったということなんだけどね。

瀧 皆それぞれの価値観があって、それぞれの判断基準があってやっているわけだから。ただ自分が生きてきた世界って違う。トップは歯を食いしばってでも払って、払った後に足りなくなったら、その分稼げよって話しかから、稼ぐ方法を考えた方

が良いんじゃないかなって思う感じかな。

生杉 ちなみに他の理事長と飲んだ時は折半だったり、出したい人が出していたから俺はそんな使ってない。

瀧 僕の周りにはいろんな友達がいて、財布とかいらないからとりあえず来てっていう人が多くて。北海道に来た時は、僕が全部払う。大阪に行った時は全部払ってもらう。それでキャラだよねっていう価値観なんだよね。(笑) 良いか悪いかはまた別の話しなんだけど、理事長としてどのようにするかって言うのは、その人が決めてたら良いと思うかな。

未来の千歳

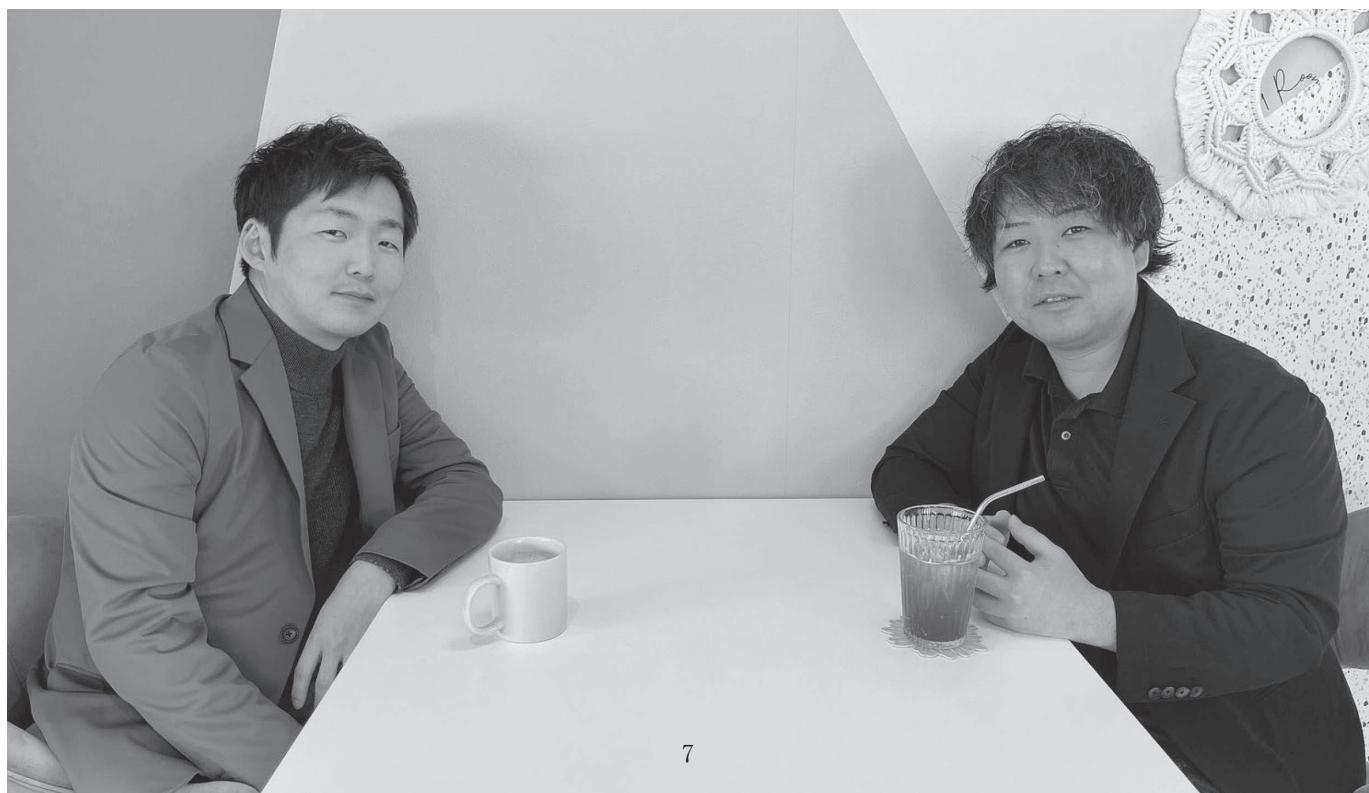
瀧 2023 年度の富樫昭大理事長には 2020 年からずっと側近としてついてきててくれて、意見が割れたり、色々怒ったりしてきたけど、自分をもっていて良い男だなって思うことがたくさんある。今日の理事長挨拶も、得意では無いけど、自覚が芽生えてきているのだと思う。年齢は関係なくて、特に青年会議所はお金をもらってやっているわけではないので、そいつのことを担ごうと思わないとやってくれないなって、それって会社でやるのも大変なの。給料払っているのに、できることできないことが皆おそらくあって、お金

を 1 円も払っていない組織で、それをやるっていうのは、結構至難の技。それをやって見せてくれる理事長なんだなと最近思う。挨拶を聞いてそう思うから来年の千歳のまち。自分が育ったまちに対して思う事は、未来が子供にとって住みやすいまちであって欲しいとか色々な考えがあるけれど、それは結構綺麗事だと僕は思っているタイプ。本当に千歳青年会議所って良い時もあれば悪い時もある。お酒を飲んでいて「また JC でしょ」って後ろ指をされるのも事実だし、それも受け止めなければならない。そして律しないとダメだと思う。自覚をもつということ。1 人ひとりが千歳青年会議所は素晴らしいねって言ってもらえる未来に少しでも近づけるように、まちにとって価値のある組織を作ってもらいたいなど。そういう組織を作れると千歳のまちは必ず良くなる。千歳青年会議所は、少なくともまちづくりを考えている団体。それが 50 人いるより 100 人いた方が良くて、100 人いるより 500 人が良くて 500 人いるより 1,000 人いるほうが良くて、共感者を増やすことで必ず良いまちになると思ってるので自分たちの組織の悪い所も良い所も理解しながら、両輪で 2023 年度を進めることができるのであれば、千歳のまちを 1 ミリでも動かすことができると思う。

生杉 俺の今年度の役割としては、2023 年度に向けていかに体制をつ

くるかというのを今年 1 年間考えてやってきました。富樫次年度は俺よりも JC 歴が長いし、それつてもしかしてプレッシャーになるかもしれないけど、やっぱり昇華させてくれる年じゃないかと思っていて、いろんなことに挑戦してほしいし、やっぱり期待をしている。だから、2022 年よりも良かったと思える組織になってくれたら、俺としても 2022 年やって良かったなど報われる。だからインパクトのある例会、事業を毎回真剣に議論して取り組んで、どうしたらより良くなるかを考えてやってほしいなど。あと、変えられることは変えてもらいたいと思っています。俺は社会も組織もその時代に応じて変えるべきだと思っています。一方で、JC には不变的な価値っていうのがあると思っている、それはそのクリードや綱領のような JC としての理念と誇りじゃないかなと。だから本質的な所はしっかり全員が自覚した上で、やり方っていうのをその時代に応じてどんどん変えていった方が良いと思います。ダーウィンの言葉で、「生き残るものは強いものでも賢いものでもなく、時代の変化に対応できるものだ。」という言葉があります。これからも JC としての誇りをもつて、より良い千歳を作ていきましょう。

瀧 皆さんとやれって事！(笑)



事業・例会報告

【2022年度1月例会（新年交礼会） 今日の一歩が明日を変える。笑顔溢れる未来をつくるために。】

開催日時	2022年01月13日（木）18時30分～20時30分
開催場所	ANA クラウンプラザホテル千歳 2階 千歳の間
主管	ネクストリーダー育成委員会

（委員長所見）

本年の新年交礼会は、新型コロナウィルス感染症の第6波直前の開催となり、計画通り会食ありの開催ができましたが、前日の天候不良も重なり当日まで参加者が不確定な状態となりました。受付担当者のご尽力やANAクラウンプラザホテルのご協力もあり、お食事や席が用意できない等の最悪な事態は免れましたが、準備段階での反省が残る結果となりました。今年度は、大人数の新入会員紹介や、本会の副会頭にご来賓いただくなどの前例がないこともありましたが、大きな事故もなくスムーズに進行でき、メンバーにとっては運動や事業に対する意識を向上できましたし、ご来場くださった皆様には今年度のJC活動への理解をいただくことができたと考えております。



【2022年度2月例会 輝く地域の未来のために】

開催日時	2022年03月31日（木）18時00分～20時00分
開催場所	千歳コミュニティーセンター 4階 体育室
主管	地域協育推進委員会

（委員長所見）

本例会は昨年度の会員拡大の成功により、新入会員が大きく増えたことからメンバー同士の関りをより深めるために、メンバーのご家族、お子様を交えスポーツを通じコミュニケーションを図ることを目的として実施しました。スポーツを通してメンバーのご家族と関わったことや、普段はなかなか見られない一面を見られたことなどにより、これから活動に対する気持ちを高められたと感じます。また、子供達と楽しむ姿がとても印象的でした。初めての担当例会ということで計画段階から開催まで至らない点も多々あったかと思いますが、ご協力いただいた皆様ありがとうございました。



【2022年度3月例会 テクノロジーでつながろう、広げよう、明るいまちづくりへ】

開催日時	2022年03月10日（木）18時30分～20時40分
開催場所	WEB開催
主管	まちの明るい未来創造委員会

（委員長所見）

本例会ではコロナ禍により集客が難しい状況の中で、お店や会社の魅力を伝えて消費者の来店や利用に繋げるための方法として、WEB配信に着目いたしました。インスタライブのみで配信するという初の試みを行いました。デジタル活用に対する意識と利用の現状、お店や会社の課題解決に繋がるデジタル活用について委員会メンバーでプレゼンテーションし、WEB配信の中でも物販や発信方法の一つとしてライブコマースを理解し、SNSを活用した集客の効果を知っていただきましたきっかけとなるよう講演を外部講師に行っていただきました。例会後にライブ配信を希望されるお店や会社に伺い、実践するための方法もリアルにお伝えすることができました。



【2022年度4月例会 官民連携で持続可能なまちづくり～JCと一緒にまちを考えよう～】

開催日時	2022年04月28日(木) 19時00分～21時00分
開催場所	ベルクラシックリアン HEIANKAKU 3階 アイリスホール
主管	ネクストリーダー育成委員会

(委員長所見)

千歳市産業振興部商業労働課の二階堂真弥様をお迎えし、千歳市官民連携まちなか活性化推進事業についてご講話いただいたことにより、現在千歳市が取り組んでいるまちづくりについての知見が深まりました。その後、ネクストリーダー育成委員会からのプレゼンテーションで千歳青年会議所が今まで行ってきたまちづくり、ひとづくり事業を説明することによって、対外参加者が青年会議所運動に興味を抱くきっかけとなり、その後のグリーンベルト周辺エリアや活用されていない千歳のスポットの有効活用についてのグループワークを行い、対外参加者とともにまちづくりを考え交流を深め青年会議所の運動や理念に共感していただける内容となりました。



【2022年度5月例会 Jr.CHITOSE 2022】

開催日時	2022年06月19日(日) 10時00分～15時00分
開催場所	千歳アウトレットモール・レラ
主管	地域協育推進委員会

(委員長所見)

本例会は子供達に学びの場を提供したい想いから、様々な職業や社会構造を学んでいただく例会として開催させていただきました。例会を開催するにあたり多くの方々に共感していただき関われたことや、多くの方々にご協力いただけたことが、とても嬉しく感じております。また何より子供達が一生懸命に学ぶ姿や、楽しんでいる姿を見られたことがとても嬉しく思います。お申し込みの応募数も定員100名の所、300名程のお申し込みがあったことからも、こういった学びの場は必要なんだと思いました。例会開催にあたりご協力いただいた多くの方々に心より感謝を申し上げます。



【2022年度6月例会 だんらんでつくるエコをわかるでつなぐ省エネを】

開催日時	2022年06月09日(木) 18時30分～20時30分
開催場所	千歳商工センター 2階 大会議室
主管	まちの明るい未来創造委員会

(委員長所見)

本例会は、千歳市ゼロカーボンシティ宣言の「省エネルギーの推進」と環境省の「ゼロカーボンアクション30」エネルギーを節約・転換しよう」を盛り込み、過去と現代の生活様式と家庭内のエネルギー消費について委員会メンバーが住環境に焦点を当てたプレゼンテーションを行い、家電製品が出す二酸化炭素や消費電力について講師の岡崎朱美様に講演していただきました。さらに、パネルディスカッションを岡崎朱美様と千歳青年会議所の生杉理事長に行っていただきました。例会を通じ、環境改善に繋がる日常行動について参加していただいた市民の皆様と市の環境課の方々と共に、パートナーシップを強化してより良い環境を目指していきたいと思います。



【2022年度7月例会】

開催日時	2022年07月21日(木) 18時30分~19時00分
開催場所	WEB開催
主管	三役

(専務理事所見)

7月例会は2022年度三役が担当し例会後には選出委員選挙及び2023年度役員選出選挙が実施されました。本年度はWEBでの開催となり、ひざを突き合わせての開催は叶いませんでしたが三役、総務委員会主管のもとWEBの利便性と現在の時代性、そして青年会議所の伝統が融合した形となりました。選挙にて2023年度理事長予定者が決定し千歳青年会議所60代目理事長予定者として画面を通してメンバーにご挨拶をいただき、ここから次年度体制としてのスタートにもなった大変貴重な時間を共有することができました。



【2022年度8月例会 JCI CHITOSE フォトコンテスト なんまら千歳2022】

開催日時	2022年08月19日(金) 18時00分~21時30分
開催場所	幸町おまつり広場
主管	総務委員会

(委員長所見)

3年ぶりの開催となった千歳市民納涼盆踊り大会にてたくさんの方から千歳市内の魅力ある写真を出展いただきフォトコンテストを実施いたしました。また、市内各地で開催された催事に出向き子供達を中心に市民の皆様にのぼりに夢や願い事を書いていただき、そののぼりを掲げ盆踊りを練り歩きました。大会当日はフォトコンテストの表彰式も開催し山口市長から直々に受賞者への授与も執り行い、盆踊りの練り歩きにはのぼりに書いてくれた子供達が見に来てくれるなど、様々な角度から交流を深めることができました。フォトコンテスト開催にあたりご協力くださいました先輩の皆様にもこの場をお借りして感謝申し上げます。



【2022年度3LOM合同例会 3Bomb合同例会～継続させよう！3LOMの輪～】

開催日時	2022年09月05日(木) 18時30分~20時30分
開催場所	島松公民館 集会室
主管	ネクストリーダー育成委員会

(委員長所見)

近隣LOMとの協力体制構築のための交流を目的として実施し、他LOMのメンバーとeスポーツのボンバーマンを用いて交流を深めました。団体戦で行うことにより、チーム内で作戦を立て、戦略を練ることで「チームビルディング」にも繋がり、交流を深めることができました。例会時間を超過してしまい、決勝戦を行うことが出来なかつたり、進行役を配置することを失念してしまい、各チームでばらつきのある交流となってしまったりと、反省点も多い例会となりましたが、交流することで近隣LOMとの協力体制構築の一助となつたと考えております。またJCI恵庭との合同委員会を重ね構築いたしましたが、改めて他LOMとの合同例会の難しさを学べました。



【2022年度9月例会 地域と共にふるさと千歳を学ぼう】

開催日時	2022年09月15日(木) 18時00分~20時00分
開催場所	新千歳空港ターミナルビル
主管	地域協育推進委員会

(委員長所見)

本例会では新千歳空港開港100周年間近ということもあり、改めて新千歳空港のことや、空港の歴史を学ぶ例会として開催しました。メンバーや子供達が空港のことを学べた点や、空港関係者との関係を築けた点は良かったなと感じますが、計画が変更になったり思うように進められなかつたりと、自由が利かない空港内で例会や事業を行うことの難しさを実感しました。今回開催し得たものを今後の活動に活かしていきたいと考えております。例会を開催するにあたりご協力いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。



【2022年度10月例会 歩みを止めるな！きっとあなたも出来るはず！】

開催日時	2022年10月17日(月) 18時00分~20時00分
開催場所	ベルクラシッククリア HEIANKAKU 3階 アイリスホール
主管	三役

(副理事長所見)

公益社団法人日本青年会議所 北陸信越地区担当常任理事 渡部 雄一郎 君を講師にお招きし、第一部では、仕事や家庭といった身近な所からこれまでの青年会議所生活で得た多くの学びについてご講話いただきました。そして第二部では、当会理事長の生杉君のコーディネートのもと引き続き渡部会長に登壇していただき、さらには当会から三澤顧問にも登壇していただき、10Mでの役職としての役割や地区での会長としての役割、本会においての担当常任理事としての役割などを交えながらトークセッションを行いました。そして最後にメンバーへ向けて心強いエールを含めた激励の言葉をいただきました。



【2022年度11月例会 誰もが輝く未来ビジョン～次代のリーダー達へ～】

開催日時	2022年11月10日(木) 18時30分~20時30分
開催場所	千歳商工センター 2階 大会議室
主管	次年度三役

(次年度三役所見)

公益社団法人日本青年会議所 顧問 阿登 靖紀 君をお招きし、ワークショップ形式で講話ををしていただきました。阿登顧問からJCでの様々な経験や体験をお話ししていただき、一人ひとり目的設定の重要性と過去や失敗からの価値を見出していました。ワークでは、参加者側も積極的に発言し、インプットした内容を相手にアウトプットすることができたと考えます。

2023年度の目標を明確にし、自分自身の理解が深まり自己成長に繋げる例会として開催いたしました。



【2022年度12月例会 繙承と感謝～最高の仲間と共に歩む未来へ】

開催日時	2022年12月01日(木) 18時30分～21時00分
開催場所	ホテルグランテラス千歳 2階 鳳凰の間
主管	まちの明るい未来創造委員会

(委員長所見)

12月例会では、OB会にご理解をいただき多くの先輩諸氏にもご参加いただきました。日頃ご支援をいただいている先輩諸氏へ1年間の活動をご報告し、ともに活動をしてきた4名の卒業生に感謝と労いの意を込めて卒業証書授与を行いました。そして、送辞では斎藤副理事長から卒業生一人ひとりへ感謝の気持ちを伝えられ、答辞では三澤顧問からメッセージをいただき青年会議所活動を通してできた仲間への思いを感じて胸が熱くなりました。また、2022年度の活動総括、次年度へのリレーションを行うことで次年度体制への熱意を伝え、来年度の活動に向けて気概を高めました。



外部事業報告

【スノーバスターズ2022並びに千歳川清掃2022】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催中止となりました。

【千歳ウエルカム花ロード2022】

開催日時	2022年05月17日(火)～10月18日(火)
------	--------------------------

【事業概要】

例年実施している千歳ウエルカム花ロードは本年度20回目を迎え、花の種類をサンフィニティと桃色吐息に変更し空港と市内を繋ぐ道を鮮やかに彩ることができました。また、3年ぶりに小学生の参加が叶い出前講座にておもてなしの心の大切さを伝えるとともに、実際に皆で花植を行い、交流を深めながらお互いに貴重な体験をすることができました。また、物品協賛をはじめ、先輩諸氏の皆様には多くのご協賛ご協力をいただけたことで無事に本年度も終えられたこと、この場をお借りして感謝御礼申し上げます。来年度以降も千歳市を彩る大切な活動として未来の子供達に残していくよう邁進してまいります。



活動報告

副理事長 伊藤 一成



アフターコロナ、ウィズコロナ時代に於いて持続可能なまち、魅力溢れるまちの発展のため、運動を開してまいりました。自身も含め入会 3 年未満の会員が多く在籍する中ではありましたが既存の概念に捉われること無くデジタル技術を取り入れた例会や官民一体となり環境問題に取り組んだ事業の展開及び例会を構築することができました。入会してから初めて担当ラインのトップに就き副理事長としてどのようにして青年に発展と成長の機会を提供することができるのか多々悩むことが多い 1 年間であり、未だに猛威を振るうコロナの時代に於いて難しい舵取りを迫られる中ではありましたが、多くのメンバーに支えられながら副理事長としての職務を遂行することができ自分自身も多く学びと経験の機会を与えていただき成長することができました。私は今年で卒業になりますが、これまでの青年会議所活動の中で培ったノウハウや人脈を活かし、そして家族経営という小さな括りの中で育った私にとって他人と何かを成し遂げるという貴重な経験をさせていただけたことを今後の社業の発展に繋げていきたいと考えております。さらに、これからも千歳というすばらしいポテンシャルをもったこのまちの発展に向けて今後も微力ではありますが卒業生として別の視点から精一杯努めてまいりたいと考えております。

副理事長 吉岡 翔



2022 年度の一般社団法人千歳青年会議所は、前年度に第 70 回北海道地区大会千歳大会を終えた年であり、第 59 代の生杉理事長を筆頭に、笑顔溢れる未来をつくるために様々な JC 運動、JC 活動を開いた 1 年間でした。私が副理事長として担当した、輝く千歳の未来人創造室、地域協育推進委員会では、予定者の際に様々な困難が立ちはだかりましたが、困難を全て乗り越え、「人財に満ち溢れた千歳の創造」を軸に千歳に住まう子供達をターゲットに、千歳アウトレットモール・レラや新千歳空港ターミナルビル等を会場として、一大事業規模の近年稀に見るインパクトのある素晴らしい例会を構築していただきました。委員会メンバーが一丸となって事業構築に全力を注いだことが、まさに、JCI Mission が掲げる「より良い変化をもたらす力を青年に与えるために発展・成長の機会を提供すること」であり、事業構築を通して個々の成長に繋がったことが LOM としての一番の収穫だと考えます。また、「子どものマチ Jr. Chitose」については、今後は JC 主催ではなく、メンバー有志で実行委員会を立ち上げて継続開催することも検討中とのことで、持続可能な運動を進める上で、まさに模範となる運動展開だと感じました。1 年間、生杉理事長のもと三役として職務を担えたこと、委員会メンバーを支えた坂口室長、最後まで担いを全うした野村委員長、委員長を支えた米田副委員長をはじめとする委員会メンバーの皆様に深く感謝し、1 年間の報告とさせていただきます。1 年間ありがとうございました。

副理事長 齊藤 創



今年度は、会員拡大とアカデミーに注視して様々な例会や事業を行ってきましたが、その中でも大きな気づきがありました。それは、会員拡大を行う上で数を増やすということに対して、受け入れる体制が整っているかがとても重要で、事務的な仕組みではなく理念の浸透やメンバー一人ひとりへの思いのある広報などが事前に計画されていなければ、うまく動き出せないということです。まずは、昨年度の課題が入会してからの仕組みを整える必要がありましたので、今年度アカデミーを対内で行い基礎から議案作成、そして模擬理事会で上程するということでした。この内容は、とても充実していましたが大きな課題は出席率の低さにあり、参加促進を行うがなかなか成果が上がらないという課題が残ったのも事実です。やはり、便利なツールで一方的な広報を行っても成果は上がらず、熱量の帯びた行動力が人の心を動かすということも改めて理解できました。そして、年間を通して室と委員会の関わり方のバランスを保ちながら、効果的に運営することへの難しさを感じメンバー一丸となって、困難な時にも諦めないで運動を展開していただいたことに、敬意と感謝を申し上げます。微力ですが、少しでも必要とされ愛される組織に一步前進できました。1年間、本当にありがとうございました。

専務理事 土門 哲也



まずは、JCI 日本の理事会構成メンバーを2名も輩出するという過去に無い年に専務理事という重い役割を拝命し、多くの学びを得る機会をいただいたことに感謝申し上げます。本会や地区協議会だけではなく多くの各地青年会議所との連絡を滞りなく遂行するために常に緊張感をもって臨みました。そして数多くあった道外での理事長公務すべてに同行することができませんでしたが、本会の理事会にオブザーブ参加した経験は刺激に満ちており、会議の進行や会場の雰囲気作りなど参考にすべき所がたくさんありました。これらの渉外業務を通して JCI 千歳の存在感を示すことができたと感じています。そして、すべての人に愛される組織をつくることを目指して、4つの委員会がそれぞれの運動を最大の力で発揮することができるよう、例会や事業の構築を影ながらサポートし、生杉理事長の掲げる「今日の一歩が明日を変える。笑顔溢れる未来をつくるために。」のスローガンの通り参加者の笑顔が溢れる例会や事業を行うことができました。結びに、活動に際して多大なるご協力いただきました先輩諸兄姉や関係諸団体の皆様、そして、それぞれの持てる力で一歩を踏み出して運動に邁進していただいたメンバーの皆さん、さらに、何よりも負担が大きいにもかかわらず笑顔を絶やさず前向きに取り組んだ大久保委員長と、支えてくれた頼もしい総務委員会の皆さんに御礼を申し上げ、1年間の報告といたします。

まちの活性化推進室

室長 高橋 孔明



本年度は、まちの活性化推進室の室長として伊藤副理事長とまちの明るい未来創造委員会とともに1年間活動をしてまいりました。魅力溢れるまちを創造すべく委員会とともに3月例会ではデジタル技術を設けた持続可能なまちづくりの創造を行いました。また、6月例会では環境負荷に対し理解を深め次世代に受け継ぐ内容を行い、8月にはCHITOSE RIVER CITY PROJECTを千歳市の地域資源である千歳川を生かし持続可能で魅力溢れる自然環境を次世代に受け継ぐためにも環境負荷に取り組んだ事業として3年ぶりに開催いたしました。そして、12月例会では2022年度の活動を総括し先輩諸氏の皆様や卒業生に感謝をお伝えいたしました。経験が浅いメンバーで構築された委員会ではございましたが、日々成長していくメンバーを頼もしく思い尊敬いたします。室長として委員会をサポートすべき立場ではございましたが、吉田委員長をはじめとする委員会メンバーに支えられ1年間活動できましたことを心より感謝申し上げます。最後に、2022年度に関わらせていただいた全ての皆様、そして千歳青年会議所メンバーの皆様に感謝を申し上げ室の活動報告とさせていただきます。

輝く千歳の未来人創造室

室長 坂口 直希



本年度は輝く千歳の未来人創造室室長として、Movement Policy「人財に満ち溢れた千歳の創造」のもと、次代を担う子供達のふるさと愛を育むことで地域の活力と千歳の未来をつくるため、地域協育推進委員会とともに1年間取り組んでまいりました。新型コロナウイルス感染症の影響はまだまだ強く、より多くの対象に働きかけたい想いとは裏腹に感染拡大の防止に最大限注力する必要があるなか、地域協育推進委員会は3例会全てで子供達を参加者として巻き込み、人財育成と学びの場を創出していただきました。どの例会も感染症対策という制約が無ければ更に大きな運動を起こせる可能性を秘めており、特に5月例会として実施した「Jr.Chitose2022」は事業と称して遜色なく、そこに昇華させていった委員会の熱意に改めて感謝いたします。私も2児の親として強く共感できる中で活動した1年ですが、室としての成果や達成感は三役や理事メンバーの後押し、そして千歳青年会議所全体の協力があって成し得たもので、本当に助けられました。委員会を導く立場としてその役割を満足に果たせたかという反省の想いが強いですが、新たな成長の機会をいただいたという1年でもありました。最後になりますが、吉岡副理事長や野村委員長を始めとする委員会メンバー、何よりLOM全体に支えられて室長としての1年間を全うさせていただいたことに感謝を申し上げ、活動報告とさせていただきます。

拡大コンセンサス醸成室

室長 沼田 大喜



私の2022年度は後悔と反省と挑戦でした。2度目の室長という役職をお預かりして委員会を支えるとともに、会員拡大とLOMアカデミーに向き合う1年でした。LOMアカデミーに関しては私も入会年度に開催をしていただいた身であることから思いも強いて自負していましたが、委員会とアカデミーをより良い方向に導いていくことがなかなか上手くいかない事に悩みましたが、委員会メンバーとのコミュニケーションと事業開催の回数を重ねていくことにより内容も一定の高評価をいただき、とても良い意味で課題が浮き彫りになったことで、次年度以降しっかりと引継ぎが出来ると感じています。本年度のLOMアカデミーに向き合った結果が次年度以降更により良いものになってくれればと思っています。会員拡大に関しては私の仕事上拡大対象者にスケジュールをすり合わせることが困難なことは初めから課題と考えていましたが、いただいた役割を全うしようと自分なりに試行錯誤したものの思うようにいかずには色々と悩みました。今思えば自分がやらなければならないと思い、出来る事出来ない事の選択をあまり考えず行動しようとして出来なかったことから、もっと色んな人の助けを請いながら活動していれば、また違う結果を示せたのではないかと思っております。最後になりますが、本年度思い悩みながらも発展と成長の機会をいただいたことを感謝申し上げ、私からの年間報告とさせていただきます。



総務委員会
委員長 大久保 景右

大久保 景右（以下、大久保）
1年間やってきてどうだった？

林 征希（以下、林）
あんまり記憶がないかも。去年の年末 1番大変だったのは野村委員長だと思うけど。

野村 祐也（以下、野村）
記憶ないよ（笑）

吉田 さやか（以下、吉田）
12月例会の懇親会あたりから一緒にやっていた気がする。

林 あのタイミングはやばいよね。

野村 俺、あつという間に1年間終わった。

大久保 1年間意識した事って未だにさ、正解が分かっていない状態で進んでいるから。結構、目の前の事でいっぱい。最初はこうして、来年はこうしようというのがなかった。徐々に出てきたものがでかいよう。委員会はこういう風にしようとか考えていたけどできなかっただりあえず半強制じゃないけれどそっち側にもって行くしかなかつたよね。とりあえずやんなきや。最初は委員会を開催するよりも、議案を書いていたほうが楽だった。

吉田 本当にそれ！

野村 何を準備したらいいか、何喋ったらいいかとか。

林 委員会メンバーの時間をもらっている以上はね。

野村 無駄にしてほしくないなって。

大久保 俺は何も考えてなかつたかもしれない。

吉田 繁張するしね。2時間も前に考えて上手く喋れないって。

野村 実はあの時大変だったっていう話はある？

林 顔やばかったのは吉田委員長が1番やばかった。

吉田 顔面はね。10キロ以上も太ったし。

林 これはやってやったなって話はある？

大久保 だとしたら俺は広報しかない。

吉田 間違いない。

大久保 むしろそれ以外もそこに紐付けしていった。でも、予定者の年末が1番しんどかった。

林 そうだよね。

大久保 いや、やっぱり今だ。去年の年末じゃなくて、今の年末だわ。

林 年末やばかったけど最後の最後に更新された。

大久保 予定者の段階の年末と今年の年末って、少なからず1年間の経験を踏まえているから何となく分かるじゃん。このボリュームえぐいなとか。予定者の時はボリュームとか分かってない。議案の精度とか知らないし。ここに何を添付しないといけないとか。こうなっていないと議案として成り立たないということが全く分からなかつた。今となつては分かるけど。ただ、1番印象に残っているのは、俺は8月例会だつたね。一番楽しかったかも。

林 8月例会も2議案で揉んでだからね。

大久保 分けずに押し通したけどね。これが1番楽しめたかもしれない。総務委員会のメンバーもやってくれたしね。

大久保 そう考えたら、意識したのは楽しくやろうかなあってこと。委員会も年末からわけが分からぬまま始まっちゃって、委員会の皆さん頭下げて「これも分からないけど手伝ってもらっていいですか」って。年明けてからも、分からぬままやつもらつて。1年が終わつてしまふのは申し訳ないと思ったから、俺は部活みたいにしようと思った。学生の頃を振り返ると、部活のために学校に行つていたようなものだつたから。委員会が和気あいあいできる空間になれば良いかなと考えた。あまり堅い委員会にせず、基本的に談笑しながらっていうことを意識したかも。例えば背中を見せるといふか、委員長の仕事は「次年度に何人の委員長を出すか」ということをめちゃくちゃ言われた。俺の中では全部反対だつた。そもそも俺の気持ちがまだ乗つていない時に、自分の委員会から次の委員長を出すなんて委員会運営はできないと思った。どちらかというと楽しくJC活動に参加するのが大前提だと思っていて難しかつたな。賛助会員から正会員になったメンバーに対して「来てください」「この資料を作つてください」とか、自分がやられたら無理だつたろうなと思ったから来られる日で良いので社業とプライベートを優先してもらつて、その中から



地域協育推進委員会
委員長 野村 祐也

できる事をやってもらう。楽しいと思ったら来てくれるだろうなという考えで1年間やってきた。

林 入会したばかりのメンバーが多い委員会だったから、嫌な思いはさせたくないと思ったね。

吉田 私は負荷をかけました。新入会員が多くて皆にとにかく分からぬことが多いから、大事にしたことはまずは共有する事をメインにやっていた感じ。それが本当に難しくて。まずは得意な事からお願ひをして必ず役割をもってもらって参加してもらうのは考えていたと思います。自分の委員会としてできたと思う事は、あんまり参加できないと表明していたメンバーが例会で司会をやってくれていたり、そういう事は良かったかな。ただ皆が言っているような楽しくとかはできてなかつたし辛い姿を見せまくった。顔に現れるし太っちゃてるし(笑)。体調管理ができない私を見て嫌だと思われたかな。

野村 僕も楽しくしなきゃダメでしようっていうのがあったかな。でも、楽しめていたのが主に動いていたメンバーだけだったから上手く巻き込めなかつたなど。基本的に4人でやっていたのだけど、そこで楽しくやっちゃって他のメンバーを巻き込めないという部分もあるから、難しい所もあった。ただ楽しく好きなようにやらせてもらったかなと。

大久保 バルシューレとJr.Chitoseと空港。どれが楽しかった?



まちの明るい未来創造委員会
委員長 吉田 さやか

委員長対談



ネクストリーダー育成委員会
委員長 林 征希

野村 バルシューレかな。皆でスポーツやろうぜって。家族を呼んで。

林 確かに爪痕ハンパないよね!

野村 Jr.Chitose は結構米田副委員長に動いて貰ったな。

大久保 空港も凄かったからな。

吉田 バルシューレから多かったですよね、参加者。面白かったな。

野村 面白くやらせて貰った。

大久保 人間の性かもしれないけど、基本的にそんなにメンタルが強い訳じゃないから苦しいままでは続けられない。

林 苦しむまで自分を追い詰めた事はないかもしれない。80点ぐらいで終わらせていたかもしれない。

大久保 佐藤監事も言っていたけど林委員長は1年間ぶつ通しだったよね。

林 4回ぐらいじゃないかな。理事会で議案を上程していなかったの。

大久保 会員褒賞作った方がいいんじゃない。理事メンバー限定のや

つ。1番たくさん議案を上程した人に(笑)。

林 休みたくても休めないんだよね。上程あるから。こんな数の議案を作成したことは歴史に残るんじゃないかな。

吉田 裏会員褒賞(笑)。

大久保 林委員長は特色が違ったじゃない。吉田委員長と野村委員長の委員会は、基本的に对外巻き込んで外向けの事が多かった。でも、俺もだけど林委員長は対内向け。「JCとは何か」みたいなね。こういったのって難しいよね。

林 やりたくなかった(笑)。

大久保 あれ、LOMアカデミーの議案って年初から4回開催だったつけ。

林 4回というのは自分達で決めて、それを報告一本で終わらすっていう予定だった。

大久保 全体の計画議案だけ通して、実施するごとにこんな感じでし

たっていう報告議案で行こうという感じだった。

林 ダメだった。

大久保 目的が変わる問題ね(笑)。

林 あの時は震えたね！

大久保 僕もね、うわーって。確かにー。って思いながら見ていたよ。でも、なんだかんだやり通したからすごいよね。

吉田 ずっと早く終われば良いなと思っていた。でも、節々には楽しい事もあるし、皆協力してくれたりして嬉しいこともあるじゃないですか。なので、私は CHITOSE RIVER CITY PROJECT 終わったぐらいから寂しいなと思いました。もう終わっちゃうのかなって。

林 吉田委員長みたいな性格に生まれたかったな。俺もそう思いたかった。1月から考えていたもんね「あと11ヶ月で終わる」って(笑)。

大久保 カウントダウン早！ 少なからず、他の方は分からないですけど 4人の委員長皆ってどちらかというと人の事を考えられるタイプじゃないですか、あんまり辛い思いをさせたくない。できる限り楽しく参加してほしいっていうのがあったから。JC だからこれをやろうぜっていう感じで動いた事は一回もないかもしれない。一緒にやってくれるメンバーがいるから成功させたいという気持ちの方が強かつたかな。

吉田 確かにその思いが強いかもしれない。委員会メンバーのためにということが。

林 高木副委員長なんて、なんぼ振り回されたか。よくやってくれたと思うよ。

大久保 副委員長の皆は凄かった。うちの武石副委員長、吉田委員長の所は鈴木副委員長、野村委員長の所は米田副委員長。性格出るというか辛い所に手が届くというわけじゃ

ないけど週明けに「来週の委員会どうしますか」って聞いてくれるようになってきて、あとは知らない所で動いていたりして「これやっておきました」とか。それが武石副委員長だけじゃなく齊藤君や水田さんとか吉田君とか皆。「実はこれやっててくれたんですよ」って聞いた時に尚更自分の活力になる。迷惑はかけられないなって思うし、理事会で上程する時に「委員会メンバーに迷惑かけられないな」って、そこで気持ちは乗っかったってことはあったかな。これで取り下げになつたら全部が水の泡になるなどか。気合いに入るよね。

吉田 理事会で上程台に立っていてフリーズした時に助けてもらつたし。

林 吉田委員長と鈴木副委員長の関係性を見ていると、あんなガチで喧嘩する委員長と副委員長いるのかって思ったね。

吉田 私、人と喧嘩したことなくて、本当に。それだけ思いがあるというかお互いに頑固というのがありますけど、そこまでやったからこそ強い絆もできて今もそういう所があるかもしれないけど、前とは違って理解した上でぶつかる時はぶつかるそういう事ができたのは凄いと思う。皆に対して良い影響じゃなかつたとは思うけど。意外と「委員長のためにやってくれている」って周りには言ってくれていて、委員会メンバーが納得しない時にも実は説得してくれていたこともあったり、ありがたかったです。

大久保 1人では何にもできないからね。

吉田 本当それ。皆のおかげで委員会が成立していましたね。

野村 確かに、1人では何もできないなとは思ったよね。

林 でも、皆気付いたら意外と何とかやれるんだよね。

吉田 それいろいろなやり方がありましたね。

大久保 よく言われる「立場が人をつくる」じゃないけど、委員長という立場に無理やり押し込まれて、とりあえず走るしかないから走った時に、見てくれる人達がいて、そこについて来てくれる人も離れてしまう人もいるだろうけど、ついてきてくれた人は自ずと支えてくれるじゃない。それで成り立っていたんじゃないかな。あと、これは性格だな。負けず嫌いだからやるって決めたらやんないと意味がない。あとは会社もありますね。去年の年末から年頭までは店を任せているスタッフから「またJCですか」と言っていたのが、5月ぐらいからか、俺も一応説明するようにしていて「テーマがあってこうしなければならない」「例会があってこうなる」もしくは「議案作っていてちょっと時間が欲しい」ということを伝えるようにしていたら、5月ぐらいから会社側が理解してくれるようになったんですよ。違う意味で責任感が芽生えたかもしれない。それで中途半端にやつたら会社クビになると思って(笑)。JCの事を会社に示していかないといけないかなという思いはあった。飲食店をやっているから皆さんが飲みに来てくれるんだけど、知らないうちに会社の従業員と他のJCメンバーが仲良くなつたり(笑)。今年の中頃に俺が事務局で作業をしている裏で、店と一緒に飲んでいた時あったからね。「なんでお前一緒に飲んでいるんだよ」みたいね。自分主導どうこうじゃなくて、周りが動いてこっちも動かされて成り立っていたのが1年間通して多かったかもしれないな。

林 やれたのは周りのお陰だね。

吉田 絶対にそう。やる気になったのも周りの人達のおかげだし。

林 沼田室長という凄く心強い存在がいて良かったな。室長不在ってやばいよね。

大久保 専務兼室長がいてくれたわ。

林 沼田室長いなかったらできなかつたな。新年交礼会から。沼田室長のお子さんが産まれる寸前なのに朝の5時とか6時まで事務局にいてくれたからね。

吉田 最初に委員会活動方針って書いたじゃないですか。方針の通りにいきました？

野村 書いてないかな。

吉田 あれ何書いたか思い出せなくて、始まる前と終わる前に読み返したんですけど、意外と弊害なくやれていきました。例会の中での大きなミスがあって、皆に残念な思いをさせてしまったこともあったんですけど、もともと考えていた方向性に行こうとしてやっていたのかな。結局、その方針で思い描いている形に最後のビジョンまでなったかなと思っています、私は。

林 逆の事はあるわ。今年度LOMアカデミーと会員拡大の両方やりますって書いたんだよね。正確には意見をもらって書くことになってしまった。でもLOMアカデミーしかやらなかった。会員拡大は副理事長と室長が「委員長は会員拡大しなくていい、俺らでやるから」って。

吉田 方針通りやるのが全てじゃないという、三澤さんの意見であったと思う。方針は変わる事もある。

林 野村委員長は突然委員長をすることになって2月例会で議案を書き出すって大変だったよね。

吉田 そこで自分で考えて講師を選定したのはすごいよね。あまりにも急じゃないですか。だけどそれを1発目から考えたのがすごいなと。

野村 それは生杉理事長に相談しながらつくっていたから。

大久保 吉田委員長とか委員会活動方針のバージョン24じゃん。

林 吉田委員長のモチベーションとかは何？ 24回も書き直すとか普通できる！？

吉田 1人でできないからやるしか考えがない。あとあれじゃないですか独身。暇ってこと。

大久保 野村委員長の方針は変えたんだっけ？

野村 ちょっとだけ変えて、その一文に思い込めた。

林 委員会活動方針の審議前、最後の協議でさ、佐藤監事から前の方が良かったという意見をもらってさ。それもっと早く言ってくれよって（笑）今思えばガチガチの例会をしようかなと思っていたけど失敗だった。

大久保 LOMアカデミーでいったら楽しい要素もある。そういうのを入れていかなきゃダメ。

林 やっぱりそこだねって思った！どうしたら巻き込めるか。そういう所で頑張れば良いかなと。LOMアカデミーの懇親会を開催したり。

大久保 林委員長言っていたもんね。LOMアカデミーの懇親会。同じ

立場の人間って絆ができるよね。分かるからね。その思いを共有するわけじゃないけど知つてもらえば巻き込めるよね。

林 難しかつたな。

吉田 ひとつ聞きたいんですけど、委員長が1番、いろんな人と繋がりやすいですかね。委員長をやったメリットとしてCHITOSE RIVER CITY PROJECTで商業労働課とか、6月例会で環境課とかと繋がることができました。

大久保 僕なんかは渉外が関わってきたから千歳ウエルカム花ロードとかスノーバースターズとか盆踊りもそうですし、大体関係諸団体がね、顔は自ずと広がると思うかな。

吉田 そうですよね。対外のメリットとしては。

大久保 人脈というか関わった事がない人との関わりは必然的に増えるよね。

林 やらなきゃいけないっていうのもあるよね。

吉田 JC以外の所でも関わりをもちやすいですよね。それは委員長だからとは限らないか。

大久保 そこはそれぞれの行動する気持ち次第だね。





まちの明るい未来創造委員会

CHITOSE RIVER CITY PROJECT という事業に携わることができて凄く良い経験になりました。千歳青年会議所メンバーとの距離も凄く縮まつたし、とても達成感のある例会でした。



3年振りの開催で、メンバー、市民も楽しみにしてくれていたCHITOSE RIVER CITY PROJECT、感染対策など大変だったがたくさんの人々の笑顔が見れたと思います。

新たな挑戦として、コロナ禍にも関わらず様々な配信が出来たと思います。この例会を機にライブ配信するようになりました！ SNSについての関心が高まり、多種多様な宣伝・営業方法があることに気づき大変勉強になりました。



地域協育推進委員会

5月例会では、かねてから自分が描いていた子供向けの事業としてJr.Chitose2022を開催できることは心から楽しさとやりがいを感じられました。行政や企業の皆様にご協力いただき職業体験をしている子供達の生き生きした姿を見て私自身多くの事を学べました。

バルシューレのスポーツ体験を行い、メンバーやメンバーのご家族とのコミュニケーションを図りました。地域を代表する新千歳空港のことを子供達と学びました。例会を計画するなかで、多くの方にご協力いただき、今までの自分では想像も出来なかったことが実現できました。



ネクストリーダー育成委員会

今年度はネクストリーダー育成委員会のメンバーとして活動させていただきましたが、LOMアカデミーの思い出が強く残っています。塾生のためのアカデミーでしたが多くのメンバーを巻き込めず、興味ある内容ではなかったのか情熱不足だったのか反省点はたくさんあります。個人としては実りあるアカデミー内容でした。正会員として初めてJC活動する年になりましたが学びある1年間でしたし、今まで関わらなかったメンバーとともに活動することで親睦も深めることができたと感じています。



総務委員会

広報活動の一環として、千歳市のいろいろな場所へ伺えたことがとても楽しかったです。JCI千歳公式インスタのフォロワー数が目標の1,000名（スタート時578名）を超えた時の喜びは忘れられません。

なんなら千歳フォトコンテストで、色々なことが手探りであるなか、盛況に終えることができたことが嬉しかったし、表彰式にて司会をやらせていただいたことがとても良い経験になりました。



委員会内でのゴルフ委員会に参加できたことがとても楽しい思い出です。

北海道地区担当常任理事

INTERVIEW

—会長に決まってからどのような動きがありましたか。

三澤 計史（以下、三澤）

7月の会員会議所会議で候補者として選任されてからそこからいろいろな方に会いに行ってスピーチをして地区大会を経て、北海道の地区会長としての呼び込みっていう合宿がありました。

三澤 どういうグループ構成にしたら良いかとかそこは会務常任と地区担当常任で話し合って、例えば、LOM支援会議を作りますとか最初話をしていたんだよね。立場としては、地区担としてそれは、なになにさんに伝える前提として会務と話して人の名前の入ってない組織図を作るってこと。LOMでいうと、職務分掌みたいなグループ構成を作るのに3日間関わったかな。後は地区のこと。それが7月末から8月末までかけて。

—その期間濃かったですよね。

三澤 基本的に、人と会ってないから8月末まで。日本の宿題と、地区会長の宿題があるんですよ。宿題っていうのは地区会長の宿題は誰も与えてくれない。自分に課すものだよね。日本の常任は、ある程度運動を推進していくっていう側面もあるから。副会頭や顧問から指摘がある。そして役員会みたいな会議があるから、そこに出して、いろんな意見をいただくことになる。そこにブロック会長が決まって組織ができると、実感が湧いてきます。

—立場として、人前で挨拶をする機会が多いと思いますが、どのように向き合っていましたか。

三澤 一番最初は昨年11月の地区大会で自分のエネルギーをぶつけるべきだったと思うんだよね。そこで何かやっぱりしつくり来なくて、挨拶とか上手にできなかつたと感じているんですよ。

スピーチをするたびに、傷つくというか落ち込むというか。まあ挫折みたいに。これっていうのは会議でもそうでした。

地区協議会の会長挨拶でも、聞いてくれた皆さんがあれをもち帰っていくわけですから。スピーチで会長が話す時に、いかに凝縮された言葉を皆さん伝えるかっていうのが、それは結構なプレッシャーですよね。本会では当然、中島会頭のお話しをしている姿を見る訳ですが、中島会頭の事業や式典でのご挨拶を聞くと、やっぱり人にに対するメッセージが大事だと感じます。思いを伝えることは会長の役割としてものすごく重要だと思ったし、北海道の出向者や関わってくれた人全員の思い。僕はそれを背負っているわけだよね。各所で会頭の話を聞くたびにひしひしと感じるわけです。だから、そういう機会を通じて会長としてようやくたどり着いたんです。今年の地区大会でもあったけども、やっぱりなんかね、自分の役割っていうのは言葉で人に伝えなきゃダメだって気づくんだよ。

—すごく貴重な話を聞けていると思います。リアルだなど。

三澤 いきなり、あなたは会長ですって言ってパーンと切り替わるわけではないから。やっぱりいろいろ経験していく中で今も会長になれているのか分からないけれど。もう少しで会長の姿っていうのをなんとなく掴めそうだったけど、間もなく会長の任期が終わってしまいます。意識するというか、最上位の目的、それができているかどうかを考えていくこと。だからスピーチする場面ではスピーチをすることが目的では無いから、その行き先にある部分という所にスピーチという手法を用いて導きたいと考えています。

—会長として、運動をどのように捉えていましたか。

三澤 すごく分かりやすくいうと北海道地区協議会として北海道が良くなっているのか。それを常に考えること。それを常に意識するってことかな。具体的に何をするのかっていうと、事業や運動を個人で見ると組織集団としても個人としても結局僕に集まってるから。そこでどうするかだね。近年でいうと地区協議会の会長としては、割と北海道地区のことは分かっている部類の会長だと自分では思っている。日本JCの事はよく分からないけど、やっぱりコロナで何が大きいと言えば2年間、副会長として会長のそばにいたわけですよ。そうなるとその時やっぱり外的要因の影響があつ

たという感覚もあって、そういう所からもね。地区大会とかを成功させたいっていう思いはあったかな。

一年間通して一番大きく、自分たちの運動の方向性を示せるのは、地区大会ということでしょうか。

三澤 集大成は地区大会なんだけども、僕個人としては、の中でも地区大会での総括だと思っている。運動はもっと断続的なものだと捉えていて、JC フォーラムとか地区大会っていうのは。スケール感っていうのは表せることができるんだけども、そこで全てを見せようっていうのは難しいんじゃないかなと思っているんだよね。だからやっぱり 1 年という短いスパンだとしても断続的にそれぞれの委員会が運動を展開していくこと、その地道な歩みが重要かなと思った。それぞれのテーマに対してね。テーマに対して考えてそれを推していくこと。運動系っていう委員会は僕としては何か研究者みたいなイメージなんだよね。

一地区大会の活動総括というと、今年の南空知いわみざわ大会の活動総括は、そこにいたメンバーにとっても強く印象が残っていると思います。

三澤 あれはシチュエーションボーナスみたいなものがあつてあれが全て。雨降ってやる側も大変だったし、すごく悪い言い方をすればなんでこの状況でやっているのかっていうレベルだったんだよ。そしてコロナ禍で 2 年間抑えていたっていうのもあるし、個人的にも追い込んだ時期もあって LOM との距離感ができるくるんだよ。今は割と LOM で弱みを見せないようにしているけど、僕だって先輩に怒られまくったことがあるんだよ。理事会とかの時にさ、副理事長どうなっているんだよ。みたいなね。副理事長が理事会で公開処刑されるみたいになってさ。理事長の時だって一方的にやられていたし。地区の室長を

やっていた時なんてもっとやられたからね。

--会長としての姿しか知らない LOM のメンバーからしたらそれって結構意外かもしれないですよね。

三澤 またね、僕の場合はコミュニケーションがあんまり得意じゃない人なので元々陰キャです。地区会長としてはスピーチで成果を出さなきゃいけない。役職に対して相性が悪いと思っています。きっと皆さん知らないと思うんです。僕にも新入会員だった時があったということを。2014 年 1 月に入会していきなり 2 月例会で委員会プレゼンテーションをさせてもらってそういう経験があるわけです。今でも覚えているよ。CHITOSE RIVER CITY PROJECT の委員会だったからさ。その時は「なぜこの地域資源を活用したまちづくりをするのか」っていう話をプレゼンしたんだよね。千歳市の出した総合計画に要はそういうものがあったんだよね、行政と協力しながらまちづくりを良くしていく。千歳川を有効に活用していくことになっていたのだ

けど全然分からんから、文字読んでいただけ。それはすごく嫌な思いした。その時以外にも 4 月 10 月だったかな。全部の担当例会で僕がプレゼンするっていうことになっていてとても大変だった。そういうのも、できなかつたりいろいろ断られたりしながら、その翌年が委員長でした。ふるさと事業をやってと言われて「ふるさと事業ってなんですかそれ」みたいな。

三澤 僕のそういうとこって皆見ていたり見ていなかったりじゃないですか。それを僕に限らず誰でもそうなるさ。でもなんか理事会に来て偉そうにしているっていうそのキャラ設定が故に、地区大会の日に僕もかっこよくいなければならぬし顧問らしくやらなければならぬ所から心を開き切れないっていう所もあるんでしょ。やっぱり意図的に作っているからなんかよく分からない壁があるの。ただ、雨の中で僕が喋っている所で立ってくれているメンバーの姿が目に入った時、もともと壁なんかなかったって気づいたんだ。本当は壁なんかないし、皆とともにここに立っている



んだっていうことをステージの上から見るわけよ。僕も感極まった。

—それはもう込み上げてくるものがありましたよ。

三澤 何を喋ったかじゃないのよ。実は。そういうすごいストーリーがあつて言葉にできない。僕が叩かれて可愛がってもらっている時とは違っている。本当は弱い所見せたかったけど見せられないっていうのもあるし。会長とはこうあるべきといった状態を続けていかなきゃいけない中で、そもそもなかった壁を、無理矢理作った壁が取り払われた瞬間というのが総括の瞬間だった。だから皆何を喋ったかなんて、たいして覚えてないと思うけど、あの空気感は覚えているんだよ。あの空気感に至るまでっていうのがものすごく大事で、僕はようやくあの時に会長になったのかなと思う。いい大人が泣き出したとか言ってくるけど、僕らにしか分からない、直接繋がりのある人達にしか見えない何かがあった。きっとそうだよ。

—総括も印象的でしたが、相当なプレッシャーがあったのではないでしょか。挨拶の冒頭で来賓紹介をぶち壊していくスタイルっていう。

三澤 あれは失敗した（笑）。

—あれはそういう作戦かなと思っていました。

三澤 違うんですよ。スピーチが苦手なんですよ、やっぱり緊張していたし、ギリギリまで来賓で誰が来るかは変わることもあるしね。挨拶をするにあたってパッケージを覚えるのが苦手なんだよ。そもそも、まずパッケージを覚える気がないんだろうね。苦手なくせに準備はあんまりしない。行き当たりばったりで挨拶をし続けるっていう総括はほんと、心の中から出ている声。式典の式辞は脳から出てきた声だから。なんていうのかな、言わなきゃいけないことを言った。式辞と言いたいことを言った、そんな総括。

—地区担当常任理事として喋る場面っていうのはあるのですか。

三澤 地区担として喋る事はないかな。常任理事会の中で、議案を見ていくとか。地区担と常任理事って日本でいうと副会頭の下だから。うちの LOM でいうと室長っていう役割にあたるんだ。趣旨説明っていうのはあるかもしれないけども、たまたまそういう機会がなかった。

一本会のスケールについて、分かりやすくお金で例えていただきたいです。

三澤 LOM と本会や地区協議会と比べるにあたって間違っちゃいけないことがあって、LOM の事業規模が金額的に少ない事があるからといって、価値がないということではないからね。本会や地区でも例えば各委員会で仮説を立てた運動が結果的にだめなこともあるわけです。ただ、もちろん地区よりサマコンや全国大会等の規模は大きいですよ。

—以前、億単位が動くと聞いたことがあります。

三澤 結構フォーラムとかが多いから、ここのフォーラムでどれだけ動いているのとか LOM のいただいたお金でやっているし。総予算で見ると、1億4000万とか。

—凄いな、としか思えないですね。

三澤 登録料で1億もらっているんだよ。1億何千万。

—そうですよね。それをいかにより良いものにするかっていうのは大変な作業ですよね。

三澤 サマコンでも1億ぐらいだよね。全国大会はもう少しお金がかかっているから難しいよね。スケール感も違うし、規模もでかいし。それなりの全体像のプレッシャーはあるかな、インパクトという言葉を来年使うけど、まさにそういう所はより多くの投資者がいるっていうことだから、より多くの人にインパクトを与える講師選定を求められ



るかもしれない。だけど、お金を掛けねば良いということではない。予算規模が大きいというのが魅力じゃないよ。ただ、関わる人数が増えるって事は多様性っていうのが生まれるから、そんないろんな価値観の中で作っていくことには大きな魅力があるかもしれない。難しさと良い所両方あるんだよね。だからメンバーの出向についてはどんどん出てほしいとは思う。

—僕の場合、2021年度に総務運営委員会の統括幹事として行きましたけども、地区を経験してLOMの委員長に挑めたのでイメージが湧きやすかったかもしれないです。

三澤 明確な線があって、委員長と幹事の違いだけで得るものっていうは変わると思っている。そして、できれば出向の前にLOMの副委員長と委員長っていうものはやつていただきたいなと思うしね。そこで出向して慣れ親しんでいない環境でチームを作るっていう難しさを味わつてもらいたいかなと。できれば地区でも副委員長とか役職付以上の立場で。

でも、色々なパターンがあるから、比較的段階的にやっていくとしたら、LOMの委員長をやってから地区出向というのは違うという考え方もある。在籍期間も短くなっているからね。ある程度飛び級しなきゃいけないでしょう。

あと、地区運の幹事や総務とかって割と会長側からも見える存在なんだよね。土門君も地区運の幹事やって毎度おなじみの土門とか言われてたし、そういう意味では総務出向もメリットが大きくて高橋孔明君も副会頭と普通に接することもあったよね。

—高橋室長は地区役だと思っていました（笑）。

三澤 正副と室長の間ぐらいかな（笑）。誰の補佐かよく分からなくなっていたけど、やっぱ特別補佐つ

て特殊なポジションだけどあの経験はなかなか得られないかな。大久保委員長もあそこ行ったじゃん。柴崎常任理事の送迎ミッション、地獄の1日往復で根室まで。

—良い経験でしたよ。1日お話をてきて。

三澤 あの人は別にべらべら喋るタイプの人間でもないから車内はどうだった？

—ここでパソコンを開いても大丈夫ですかって（笑）。

—組織としては新しい人間が入ってくることで構築が始まると思うのです。例えばLOMもそうで、千歳青年会議所に入会させていただきますってなった時には周りには全然知らない人しかいない状態で、まずは担いがあったり与えてくれたものをこなしていく。地区に出向すれば更に大きなスケールで自分が会ったことのないタイプの人間もいるでしょうし、そういう人達とチームを組むことで関係性がけて仲良くなるか。そういった部分の魅力ってあるのかなってなんとなく思っています。

三澤 僕そういうのは直感でいいと思うんだよね。中山千太朗先輩がそうだったんだけど。とにかく面倒見がよくて、背中で示してくれた。理事長終わって迷わず、地区運の室長で出向した。僕もその翌年室長で出向したよ。自分の枠の中で成長しようって限りがあると思うんだよ、人って。

—自己成長をするかしないか。したいかしたくないか。多いかもしれないですね、出向は。

三澤 出向というのは個人の枠と個人の外の枠があってさ、入会動機とか出向動機とかは繋げていけばいいと思うんだけど、すごい人に出会えた。良い仲間に出会えた。自分

1人で育とうと思っていたけど、LOMの人と関わろうと思う事によって、その人達の価値観から得るものもあるじゃないですか。そういうものが出来たという機会はものすごく広がっていると思う。だから良いんだと思う。

—まさにそうだと思います。

三澤 僕はもともと職人だから、自分のフィールドにこもってやっていればいいっていう所もある。

—僕なんかは人付き合いを教えてもらったという所がありますね。決まりきった固定のメンバーだけでの交流でコミュニケーションは取れていたけど、本当に初めての人とはどうコミュニケーションを取って行くかって所が苦手な人間だった。出向で誰も知らない所に飛び込まなきゃいけないってなった時に、どう立ち回っていけば良いのかということをそこで教えてもらったなというのは感じますね。

三澤 出向して得ようとしたものと、出向して得られたものはイコールじゃない。だから出向しなきゃいけないということなんだよね。出向に対する基準っていうのはその時間を奪われること。お金とかも取られることしか天秤にかけないわけよ。だからネガティブに感じてしまうんだよね。出向の立ち位置っていうのは多分、行くことがネガティブ。そういうことを考えると、お試し出向というのをしてみた方が良いと思うんだけど、やっぱり役を受けて行ったほうが良いんだよね。卒業までの設計は誰もができるわけじゃないし。入ったばかりでも、最終年度でも声がかかれば役は受けた方が良いと思う。せっかくの機会だからさ。

——ありがとうございました。

出向者報告



ロシア、ウクライナ情勢の影響で内容が大きく変更となり、主にウクライナ支援に向けた運動や、サマーコンファレンスや世界会議でのフォーラム開催など多岐にわたり開催され、全国各地からメンバーが集結している JCI 日本の委員会だからこそ、できしたことだと、改めてスケールメリットを感じました。

日ロパートナーシップ委員会

日ロパートナーシップ委員会という名の通り、日本とロシアの友好の懸け橋を築くことを目指しましたが叶わず、結果ウクライナ人道支援をメイン事業に切り替え、当委員会はサマコンと世界会議でフォーラムを開催し国際平和について深く考える機会を全国に発信しました。世界で活躍する方の価値観に触れたこの1年は、とても大きな財産となりました。



理念共感拡大会議

初めての出向でしたが、出向の魅力は LOM では味わえないものがありました。

自分で限界を決めていましたが、理念共感から新たな気づきをいただきチャレンジする機会をいただきました。

理念共感を北海道中に浸透させようと 1 年間活動してきましたが、一番は自分自身が浸透したメンバーの一人だと自覚し、今後もこの経験を活かして LOM にも地域にも還元していくこうと思いました。そして、メンバーも出向への意欲が湧くような環境を提供していきます。出向させていただきありがとうございました。



道央エリア運営会議

道央エリア運営会議に出向したことで LOM では味わえない学びと出会いとともに、改めてアカデミー研修塾に運営側としてですが参加させていただくことが出来、とても充実した1年でした。恵庭で行われた開校式とウィンターコンファレンスから岩見沢、江別、アカデミー閉校式の行われた砂川と、交流事業が行われた千歳、どれも新鮮で楽しかったとともに有意義な出向ライフを過ごさせていただきました。



LOM と北海道を舞台に運動を展開する北海道地区協議会というまた違ったスケールでの運動に大変興味をもちました。道央エリアに出向したことで普段会うことのない人達とたくさん出会いました。それは私にとってとても刺激的で運動への熱量を肌で感じ、いろいろ考えを学ぶことのできた貴重な1年となりました。

北海道トランスフォーメーション委員会



会員会議所会議に参加させていただき、LOM の理事会あまり見たことがない中で、地区の規模を勉強させてもらいましたし、札幌で行われた JC フェスティバル 2022 に参加させていただき、新たに色々な人と出会うことがあり出向の醍醐味を感じることが出来ました。

JC フェスティバルや地区大会議案の上程をする室長の後に立ち、あの独特の雰囲気を経験できたことは大きな財産になりました。LOM のメンバーとは違い知らない人だらけの場所に飛び込むのはとても勇気のいる事でしたが新たな出会いがたくさんあり自分の幅を広げる良い機会になりましたし、JC フェスティバルや地区大会の当日に向けてスタッフ一同で取り組み大変でしたが終わった後の充実感は何とも言えないものでした。



地区大会運営委員会

第 71 回北海道地区大会南空知いわみざわ大会の構築のお手伝いをさせていただきました。広域連携として近隣 4LOM 主管の今回の地区大会では多くの一般市民参加型のまち歩き人生ゲームの開催をおこないました。困難を極める部分も多々ありましたがとても魅力溢れる事業を展開することができ、私達の今後の活動にとても参考になり、事業の運営側として出向できたことはとても良い経験になりました。



地区大会の懇親会で司会という大役を仰せつかりました。前の経験をいかして頑張りました。地区大会は北海道で一番の事業だと思いました！ その経験ができたことが JCI での 1 ページとなりました！ 今までにない知識や経験、人の繋がりが財産となりました。

国際関係委員会

日口関係委員会という委員会名から、国際情勢の変化から委員会名が変わるということから始まり、年当初計画していたことから大きく変化があった委員会でした。しかし、例年開催している北方領土現地視察大会や署名活動の他に、地区大会では東欧文化発信の事業や、ウクライナの避難民支援活動など今年ならではの活動をさせていただく機会となり、実際に国際情勢に即した運動を展開していくことで、JCI の可能性をまた感じる 1 年間でした。最後の 1 年は出向で学んだ多くの経験を LOM に還元することで感謝の気持ちを示していきたいと思います。





総務運営委員会

本年度は、公益社団法人日本青年会議所北海道地区協議会総務運営委員会に出向の機会をいただきました。担いいたしましては、アジェンダの作成、諸会議の設営、議事録が主となっております。新型コロナウイルス感染症の影響で対面での会議が行われない中からのスタートではありましたが、2022年度は対面での会議をメインとし、時にはWEBと対面でのハイブリッド会議の併用で諸会議を行いました。また、円滑な運営を心掛け臨機応変に対応する会議の仕組みはLOMにも求められていることで、その仕組みをLOMに還元できるよう取り組んでまいります。

道央エリアアカデミー研修塾

各地の会場で彼らと出会い、彼らの活動を目の当たりにしたことでのやる気が高まるのを感じました。

幹事の役職を担い、リーダーと副リーダーの方と協力して案内や情報の共有や青年会議所運動の基礎の部分を学ばせていただき、自己成長と仲間との絆を深める多くの機会を得ることができました。



セレモニーがある理由、そして青年会議所での学びは社業やプライベートでも生かすことができるということを学びました。他LOMで行っている事業を共有し、各青年会議所で行われる事業を理解し互いのLOMについて興味をもち、そして互いを応援し合える絆が生まれました。全道各地から集まったJAYCEEの方々が発する熱量を肌で感じ、たくさんの刺激をいただきました。

活動報告(顧問・監事)



顧問

三澤 計史

日本全国の青年会議所において会員減少が問題視される中で、昨年の賛助会員の入会者が多かったことにより、当会は前年より 1.5 倍に増員された体制でのスタートとなりました。他方で、新入会員の比率が極端に高まったために、これまでの会員に対するフォローアップ体制を大きく見直すとともに、会員個々に対して「地域の青年に発展と成長の機会を提供する」といった青年会議所の使命等の基本的な理念の浸透にエネルギーを注いだ年となりました。

また、年当初は新型コロナウイルス感染症の影響も徐々に薄れ、アフターコロナに向かうステージでの事業展開を行えることに期待しましたが、結果としてコロナに対する世の中の不安が解消されない状況は変わりませんでした。しかしながら、過去 2 年間のコロナ禍での経験を活かし、WEB を用いたコミュニケーションを平常化し、3 年ぶりの CHITOSE RIVER CITY PROJECT を始めとする公益事業を実施し、千歳市内における諸会議や対面型イベントの開催に対するガイドラインを示したことは大きな成果となりました。

以上の様に、まちをより良くするための運動をおこす個々のリーダーシップの開発と、厳しい状況下においても運動を展開する知恵と逞しさを学び得た経験から、当会は地域に必要とされ続ける組織となるべく、一回り成長できた 1 年がありました。ご協力を賜りました関係各所の皆様に心からの感謝を申し上げ、本年の報告とさせていただきます。



顧問

村井 英俊

2022 年度は外部顧問として現役とは異なる視点で運動を見守らせていただきました。それぞれの立場で役割と責任を全うし成長していく姿を客観的に捉えることができたことは自身の気づきにもなり、貴重な経験をさせていただいたと感じております。そして、その気づきを現役メンバーと共有することで、メンバーの気づきの促進に繋げることを意識した 1 年間でした。

今年度も新型コロナウイルスの影響で変更・対応が必要な場面はありました。過去 2 年間の経験から 1 年を通して柔軟な対応ができ、ウィズコロナ時代に対応した組織の基盤は確立できたと感じております。会員数の大幅増の翌年ということで、LOM アカデミーを実施したことは今年度の特徴の一つでした。各人のモチベーションによって個別のアプローチが必要であることが浮き彫りになったかと思いますので、しっかりと検証して、次年度以降の持続可能な会員拡大に繋げていただくことを期待します。また、3 年ぶりの CHITOSE RIVER CITY PROJECT 開催は、まちの賑わい創出と組織の団結という結果をもたらしました。この結果は 2023 年度で 10 年目を迎える事業に繋がるはずですし、入会歴の浅いメンバーが多い千歳青年会議所にとって自信になったものと信じています。

結びに、卒業後も特別会員として機会を提供いただいた現役メンバーの皆様に感謝を申し上げるとともに、皆様の 1 年間の活動に敬意を表し報告とさせていただきます。

監事

佐藤 剛



理事の職務執行を監査することが監事の職務とされている所、法人として定款や諸規程、各種法令等に則り適正に運営されているかを監査する重要性や責任の大きさを改めて学ばせていただきました。加えて、卒業生として自身の拙い経験の中ではありますが、それを如何に現役メンバーへ伝えることができるかという所も考えながら1年間務めさせていただきました。

本年度は、予定者の時期が北海道地区大会の主管と重複したことで、準備に十分な時間を設けられなかったかも知れません。しかしながら、賛助会員から移行された多くの新入会員が精力的に活動されたことでLOMの原動力となっておりましたし、近年開催の無かったLOMアカデミーを年間通して行うなど、生杉理事長が年初に掲げられた会員の資質向上をしっかりと体現され、次年度へ繋がる成長が組織として見られた年であったと確信しております。また、JCI日本へ地区担当常任理事と委員長を同時に輩出するという貴重な年となり、その経験は当人に留まらず他のメンバーにとっても学びの機会が提供され、LOMの発展に大きく寄与されたものと実感しております。

歴の浅いメンバーが多いということは、成長の余地が大きいLOMと言い換えられますので、今後益々素晴らしい組織になることを祈念するとともに、本年1年間千歳青年会議所の運動、活動に全力で邁進された会員の皆様に敬意と感謝を申し上げ報告とさせていただきます。

監事

曾我部 喬



昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策の影響で、活動縮小を決断した団体が多数ある中、すべての事業、例会、理事会を予定通りに開催し、立ち止まることなく運動を展開し続けた生杉理事長を始めとする正会員、賛助会員の皆様には感謝申し上げます。本年度、監事という立場から、当会議所の財政状況を監査する役割はもちろんのこと、より良い運動を展開していくための一助となれるよう、理事会では意見を述べさせていただきました。今年度は、当会議所から、日本青年会議所の常任理事、委員長を輩出したことから、北海道内のJCメンバーから注目を浴びる組織でありました。このようにLOMとして重責のある1年間で御座いましたが、多くのメンバーに対して、発展と成長の機会を提供することができたのは、生杉理事長のリーダーシップによる功績であると実感しております。

正会員の皆様には、この1年で得た貴重な経験を無駄にすることのないよう、しっかりと2023年度に引き継いでいただければ幸いです。

結びに、当青年会議所の活動に際して、ご支援、ご協力いただきました関係者団体の皆様、先輩諸氏に心より御礼を申し上げ報告とさせていただきます。

会員褒賞

年間出席率 100%会員褒賞受賞者



生杉 隆礼



土門 哲也



高橋 孔明



吉田 さやか



島本 弓樹文



中田 愛



伊藤 香織



土居 潤哉



齊藤 悸

特別会員褒賞

ベスト Thanks!チーム賞

委員会の垣根を越えたコミュニケーションの活性化と広く千歳青年会議所活動に貢献した委員会に贈られる賞

受賞者チーム

まちの明るい未来創造委員会



吉田 さやか



鈴木 丈弘



伊藤 洋平



今井 涼



猿山 紗綾



島本 弓樹文



中田 愛



成田 芽生



安田 空源



吉本 考臣

ベストバズラー賞

注目を集めるためのスキルを磨き上げ、最も高い発信力を身に付けた会員に贈られる賞



受賞者 まちの明るい未来創造委員会 委員長 吉田 さやか

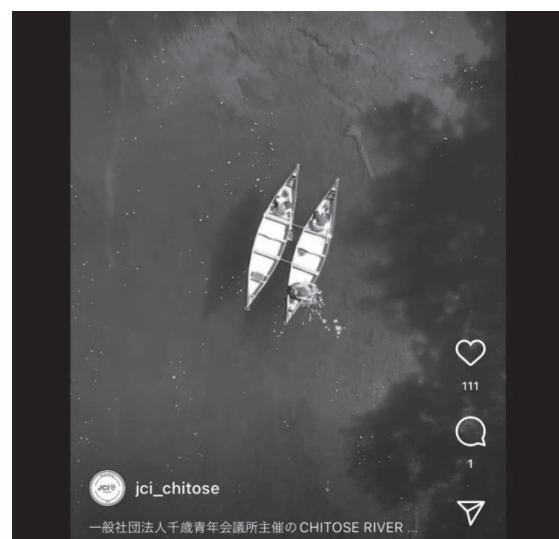


ベストインフルエンサー賞

広報・PR活動を精力的に行い、LOM や地域の魅力発信に最も貢献した会員に贈られる賞



受賞者 まちの明るい未来創造委員会 成田 芽生







会員募集中!!

一緒にまちづくり運動しませんか？

昨今の経済低迷化の中、必要とされているのは私達若い世代の活力であり、それぞれ個人の資質を向上し、企業に還元することでより良い世の中が実現されると私達は考えております。青年会議所という団体は、時代の流れを受けより地域社会に必要とされる運動を展開しながら、地域社会の発展を真剣に考えている団体なのです。今まで本当に多くのメンバーが在籍し、それが地域社会や国を舞台に今も活躍しております。

入会に際して所属されている企業・経営している企業の形態や規模は一切関係はありません。個人経営の方から、一般会社員の方たちから、企業の経営者、役職者まで幅広い多くのメンバーによって構成されております。

この困難とされる時代だからこそ、一緒にまちづくり運動を通じて自己の成長、企業の発展を目指していきませんか？

お問合せお待ちしております。

電話／080-3232-6959【会員拡大会議 議長(米田)】

FAX／050-3588-2436

Mail／mail@chitose-jc.com

ホームページ／<https://chitose-jc.com/>

例会・事業の

オブザーブ大歓迎！

お問合せください。



Instagram



Facebook

